

1. 活動報告（事務局 記）

—3月5日（日）天気も良く、会員14名で、借用の三角田の溝あげと観察路の草刈りの作業を行いました。作業前に、今後の運営について話し合いをしました。

—3月19日（日）天気も良く、会員15名で湿地帯のエコアップ、田んぼのよけじの溝浚えと水棲動物の移動、借用している田んぼのトラクターによる耕運、エンジン式機器の試運転の作業を行いました。

2. 今後の予定（事務局 記） ◎行 事

—4月2日（日）令和5年度総会

—4月9日（日）維持活動（草刈り）

—4月15日（土）親子自然観察隊（結隊式・野草観察）外部講師招聘

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「令和5年度の親子自然観察隊とビオトープ」(観察隊隊長 管 哲郎 記)

・高齢化による会員の減少

長い間行われてきた「親子自然観察隊」もいよいよあと1期となりそうです。「ビオトープ」というフィールドがある限り、子供たちに自然の素晴らしさを伝えるツールとして私たちは頑張ってきましたが、ビオトープを維持管理する会員たちの新陳代謝がうまく進まず、ここでも「高齢化」をまともに受けてしまいました。

・維持管理のむつかしさ

3月19日にはビオトープのフィールドを利用して、「ネイチャーゲームの会」の団体が子供たちを連れてお餅つきやゲームを楽しまれました。

このように、フィールドを利用することはどの団体でも簡単にできるのですが、そのフィールドを維持することがむつかしいのです。特に「二俣瀬ビオトープ」はため池、湿地、河川などの水回りを抱えています、それゆえ草を刈るだけでは管理できず、池の中、河川の雑草の除去が要求され、陸上の草刈りの何倍もの労力が必要となります。

さらにここは「ビオトープ」という特殊な場所です。単純に機会を入れて雑草を根こそぎ取り除くことができません。なぜかといいますと、湿地の中には絶滅危惧種の水棲昆虫や水生植物がたくさんあります。手作業で丁寧に雑草などを取り除かねばそうした昆虫や植物がいなくなってしまう。一般の公園のような土木工事を行うわけにはゆかないのです。雑草の根を掘り取るのにスコップを使用しますが、根の中の泥の中に昆虫や植物の

卵や幼虫、小さなタネなどが潜り込み含まれており、外に捨てたくないのですが、やむを得ず目をつむって作業しています。

また、場内は自然な水路があちこちにつくられています、大雨が降りますと当然大量の落ち葉が水路に溜り、雨が上がると水路掃除を行います。これを怠ると雨水があふれ、土手を侵食しビオトープの姿が壊れてしまいます。降雨後の水処理も行わねばならず、地元の会員がいつも大変な思いをされ管理しているのです。

ビオトープのもう一つの目玉である「水車」が回っています。皆さんは見て楽しめられますが、ビオトープの会員は定期的に“グリスアップ”して維持管理しています。

これらのことを20年以上続けてきました。“やめないでほしい”という声はあちこちで聞かれ、耳が痛いのですが、いろいろな方に声掛けし協力をお願いしましたが、やはり作業には来られません、仕方がありませんね。

令和5年度の観察隊は35家族50名になってしまいました。宇部市からの受け入れも多く、あっという間の出来事で、やむを得ずお引き受けいたしました。ビオトープ会員の皆様に今年は負担がかかるやもしれませんが、最後だと思ってなにとぞお力添えをお願いいたします。隊長としても何とかやりくりして頑張る所存です。

5. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管哲郎記)

(85) ニホンミツバチ *Apis cerana* ハナバチ科ミツバチ属

ハチの中でも特に皆さんおなじみのハチでしょう。体長10～11ミリほどのハナバチで花粉を運び蜂蜜を作ることよく知られています。本州、四国、九州に生息します。日本在来のミツバチで、郊外の畑地や林地の近くでは、よく巣箱が置かれ業者が蜂蜜を集めています。

自然になかでは木のウロ(穴)などによく巣をつくりませんが、屋根裏やお墓の墓石の納骨空間、コンクリート製の電柱の中などでも巣をつくります。

昆虫の中でも特に人間や他の生き物になくてはならない昆虫です。野菜や果物などの受粉を行いますので、ハチがいなくなると人間の食生活が大変なことになるでしょうし、雑草や樹木の花も大打撃を受け、そのほかの生き物にも大打撃を与えることになります。

県内のある公園で杉の木の根元に大きな穴が開いており、そこにミツバチが大量に巣づくりしていました。1週間後に再び訪れたところ、公園の管理者によってでしょうか殺虫剤をかけられ全滅していました。ミツバチの大切さをわかっていない公園管理者とはいったい何なのか？環境行政のお粗末さに声も出ませんでした。「ハチだから怖いもの」ということしか理解できていない勉強不足の人は、公園管理に携わってほしくありません。



レンゲとニホンミツバチ



お墓の納骨空間に巣をつくるニホンミツバチ



ニホンミツバチの群れ

6. 会よりの連絡事項

- 1) 令和5年度の総会は、二俣瀬ふれあいセンターで行われますが、今後のつくる会がビオトープの運営について、どのように対応するのかなど重要な協議が行われます。多くの方が参加され、ぜひ意見を述べてください。

7. 編集後記 (中本 亜矢子 記)

コロナ禍も落ち着き、3月13日以降はマスクの着用も個人の判断に任せる方針になった。人が集まる活動も徐々に再開が始まり、世の中に活気が戻りつつある。親子自然観察隊の応募も今年は大幅に増え、30家族を超える応募があった。しかしながら、20年間会員でささえてきたビオトープの維持活動が困難になりつつある。会員の高齢化、後継者問題が深刻になっているのだ。今年はともかく、来年、再来年はどうなっているのか。先は見通せないが、今できることを精一杯するしかない。

ビオトープのあるこの場所は、みなが集まれば、自然の中で楽しく汗を流し、交流できるたまり場であった。新しい親子自然観察隊のみなさんを迎え、今年もたくさんの思い出をつくれることを願っている。